



かがやき

Vol.40
2016
1月

～ みらいっこまつりではお世話になりました！～

第16回「みらいっこまつり」では、共同機構の各団体の皆様には楽しいイベントを企画・運営していただき無事に終わることができました。

他にも、おにいさんバンド・フラダンス・絵本 DE あそぼ・絵本リサイクル・オルゴール演奏・オリジナルカレンダー作り・おもちゃ病院・缶バッジ・人形劇・似顔絵コーナー・お茶席体験コーナーなど様々なイベントを楽しんでいただくことができました。イベント開催にあたり、ご協力いただき本当にありがとうございました。

みらいっこ わくわく コンサート

(公社)京都市私立幼稚園協会

毎年恒例のコンサートです。クリスマスソングやアニメソング等、歌やダンスで会場の子どもたちと一緒に盛り上がりました。クリスマスのお話のパネルシアターも素敵でした。



わくわくステージ・みんなあつまれ

京都市保育士会

「シャボン玉」のパネルシアターで、本物のシャボン玉に目をキラキラ輝かせた子どもたち。最後には、虹色のオーガンジーの布が会場内を一周すると拍手喝采でした。メロディーベルの演奏も素敵でした。



エアマットであそぼう

(公社)京都市保育園連盟

フワフワのお家に入ってポンポン飛び跳ねることができる子どもたちの大好きな遊びです。今年も楽しそうにはしゃぐ子どもたちの声が聞こえてきました。



あかちゃんといっしょにあそびましょ〜♪

NPO法人 京都子育てネットワーク

クリスマスフラッグ作りやベビーマッサージやふれあい遊びで赤ちゃんとおかあさんがゆったりできるひとときでした。



みんななかよし お楽しみ会

京都市立幼稚園長会

うさぎのパペット人形やペープサートを使ったクリスマスの劇あそび、大型絵本と次から次へと楽しい催しがいっぱいでした。会場にも楽器が配られ、みんなで一緒に演奏しました。



赤ちゃんふれあいコーナー

京都市営保育所長会

赤ちゃんとおかあさんが、畳の間での～んびり、ゆったり過ごせるひとときでした。日頃の子育てでの不安や悩みを保育所の所長であるベテランの保育士さんに話をして、親子でほっこりできるひとときのようなのでした。



保護者理解と支援

講師 倉石 哲也 武庫川女子大学教授

保護者も子どもを産むまでは「育てられる者」でしたが、子どもができると急に「育てる者」という役割を担っていくことになります。自分の育ってきた過程で、自分の親との関係が肯定的であれば、親としての自分を連想しやすいのですが、困難を経験してきた場合、自分の子育てに影響してきてしまいます。特に思春期に親との関係が上手くいっていないと自信が持てず誰かに依存するようになり、保育者との間で思春期のやり直しをしていることがあります。

愛着（アタッチメント）について、心理学者のジョン・ボウルビィは、子どもが不安や危機的だと感じる状況、不機嫌なときに特定の養育者との間で情緒的な安定を取り戻そうとする行為であると言っています。養育者との愛着がうまくいかない子どもは、情緒の制御がうまくいかない、特異な行動パターンを繰り返す、社会性や対人関係に歪みが生じる、養育者への関心が弱いなどの課題を抱えています。しかし、養育者には自分の親との思春期の体験から、安定型、愛着軽視型、不安定・囚われ型、未解決型というように様々なスタイルがあり、それは簡単には変わりません。親の養育スタイルを変えようとするのではなく認めていくことが重要です。

子どもは、養育者によって愛着行動を変えます。母親と保育者に対する愛着行動が違う場合があります。「先生が甘やかすからだ」等と園（所）のせいにするかもしれませんが、「子どもの不安を受け止めるようなスキンシップを大切にしていけるのが保育園（所）・幼稚園なんです」ときちんと伝えることが大切です。保護者から言われることで保育の軸がぶれてはいけません。

保育園（所）・幼稚園の役割は、保育者による愛着形成を行い、保護者に子どもへの関心を向けてもらうこと、そして保護者と一緒に子どもの育ちを支えることです。保護者自身が抱えている大変さは関係機関など地域で連携して見守っていく、支援していくことが大切です。

保護者対応のポイントを学ぼう

講師 森崎 和代 女性ライフサイクル研究所フェリアン

支援で一番大切なことは、「あなたが大切です」という思いを伝えることです。それが伝わると、相手は「自分は大切な人間なのだ」と思えるようになります。自分のことを大切だと思えなければ、身の回りのことも、子どものことすらも大切にはできないものです。そして「自分のことを大切」に思えるには時間がかかります。だからこそ、日々の積み重ねが大切になり、日頃のコミュニケーションが信頼関係を築く鍵となります。

「コミュニケーションが大切」と言うと「どう言えば」という質問をよく受けまます。実は人への伝わりやすさは、言語が7%に対して非言語が93%とはるかに上回ります。「どう言えば」という「言語」よりも、「よく聴こうとしてくれる」という「非言語」の方が伝わりやすく重要です。

「困った親」や「文句を言う親」は「困りを抱えた親」であると視点を変え、そうしてしまう背景を想像してみましょう。教えたり直させようとするのではなく、非言語を観察し、しんどさを共感し、どのような気持ちでそうされているのかを理解し、共にある姿勢を大切にしましょう。アドバイスが入るのはその後です。

「子育て支援」は「親支援」だということを忘れないようにしましょう。支援者が問題を解決してあげるのではなく、保護者自身の持つ問題解決力を引き出す関わりが重要です。どのような人も何らかの力を持っています。けれども周りからの理解ない関わりの中でその力を失っていくのです。保育者は保護者や子どもに大きな影響を与える力を持たされています。保護者が安心と自信を得られるような言葉かけをし、プラスのところやできていることを言葉にして伝えましょう。その関わりの中で保護者が元気になっていければ、皆さんの保育者としての力も引き出されていきます。一方がしてあげる関係性ではなく、いいところを引き出し合う関係性を大切にしましょう。

完璧な親などいません。だから支援するのです。保育者である皆さん自身も自分を大切に、保護者の温かい味方であり続けてください。

Information

インフォメーション

「子育て図書館」のご案内

先生向けには、「現代と保育」「自然と遊ぶ」「発達」「保育とカリキュラム」等々の専門誌が充実しています。



子育てに関する専門書籍が充実

子育てに関する専門図書館として、主に小学校低学年までの子ども向けの絵本、紙芝居などを約2万冊、子育て中の方々や、幼稚園、保育園（所）の先生向けの図書、保育専門雑誌を約7千冊所蔵しています。また、子ども向けのCDや、ビデオも多数揃えています。

図書館カードがあれば利用可能

京都市図書館で発行されたカードがあれば、どなたでも利用できます。お持ちでない方も、京都市内在住か、在勤であれば、すぐに発行できます。保育や様々な遊び、職員研修等の参考にしてください。

開館時間：（平日）9：30～20：30（土日祝）9：30～17：00

休館日：火曜日（但し、祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休み）、年末年始

場所：京都市中京区間之町通竹屋町下る こどもみらい館3階

電話：075-254-8181

「共同機構研修会ビデオ・DVD貸し出し利用について」

こどもみらい館では、共同機構研修会のビデオ・DVDを貸し出しています。

職員研修にご使用していただく場合に限り貸出しておりますが、貸出し期間や本数を従来よりも長く、多く借りていただけるようになりました。

○貸出本数：1回につき5本までとします。

○貸出期間：貸出日から1ヶ月以内とします（貸出期間の最終日が休館日の場合は、その翌日までとします。）

*詳細は、こどもみらい館総務課にお電話ください。

お知らせ

週刊教育PRO

研究・研修資料閲覧コーナー

是非ご覧ください。

平成27年度『週刊教育PRO』「相談室」のコーナーに連載中の大阪芸術大学初等芸術教育学科教授 西林幸三郎先生は、「子どもの心に寄り添う」ことをテーマに毎回様々な角度から、教師や子育て支援者、保育者の果たすべき役割について温かく、熱いメッセージを掲載されています。

西林先生は、幼稚園長、小学校長のご経験もあり、現在、大学教授として、また、児童虐待防止協会等でご活躍されるなど、年齢を越えて幅広く子どもの心に寄り添っておられます。その文章からも子どもを見る目線の温かさが感じられ、次年度の共同機構研修会の講師として来ていただきたいと依頼をしたところ、その依頼内容に深く共感いただき、12月15日発行のNo.28号の西林先生の「相談室」のコーナーでご紹介いただきました。

『何かができようともできなくてもあなたが大切な存在なんだ』という”子どもへの眼差し”について西林先生にも共感していただけたことを嬉しく思っています。是非ご一読ください。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で「京都はくくみ憲章」を実践しましょう!



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!



発行日 平成28年1月20日

発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883

中京区間之町通竹屋町下る楠町601番地の1
Tel (075)254-5001 Fax(075)212-9909